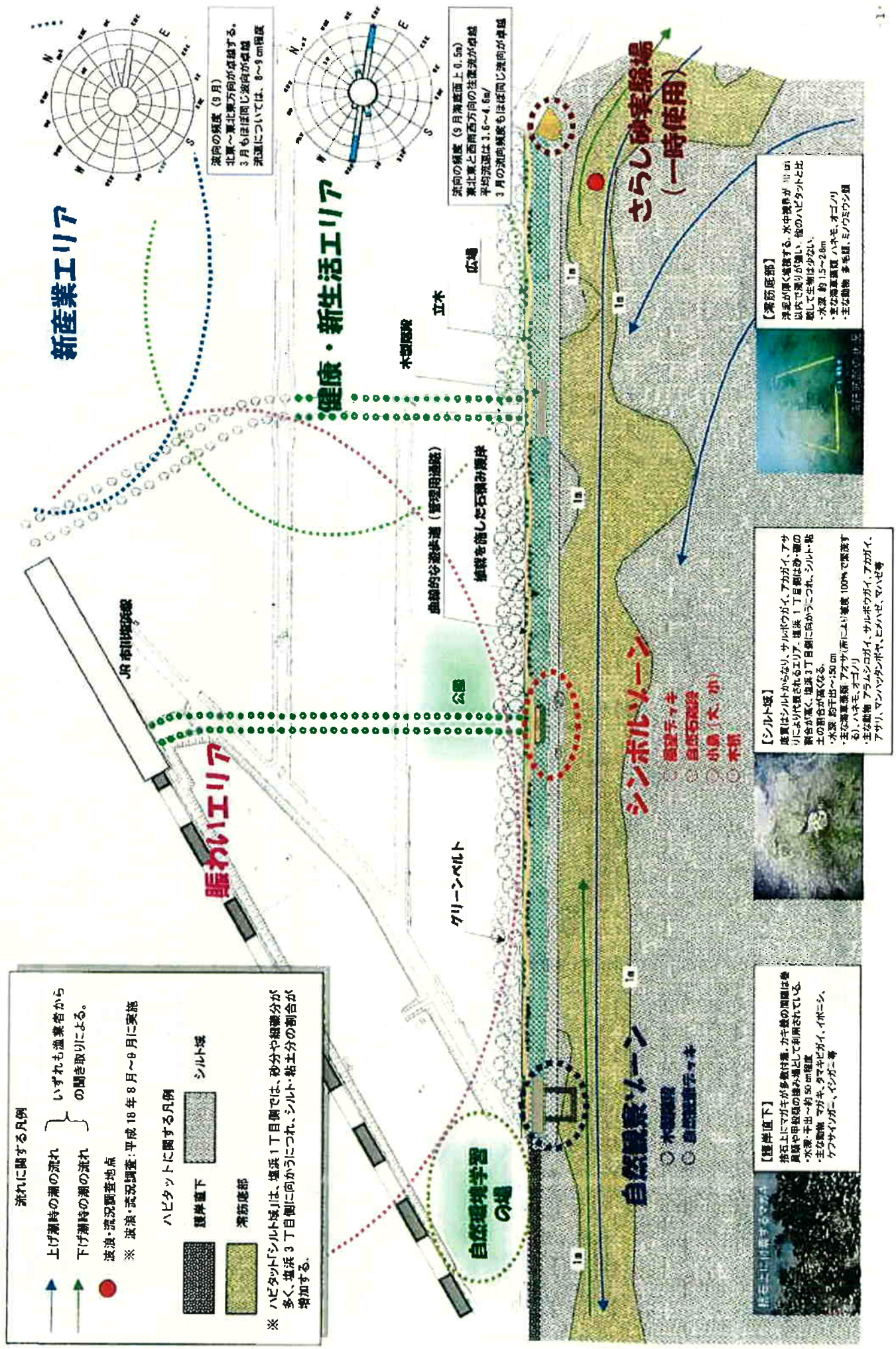


事務局が考える塩浜2丁目の護岸配置示デザインイメージ (1)



流れに関する凡例

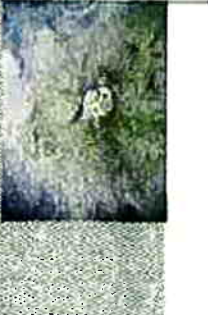
- ↑ 上げ潮時の潮の流れ
- ↑ 下げ潮時の潮の流れ
- 波浪・流況調査地点
- ※ 波浪・流況調査：平成18年8月～9月に実施

ハビタットに関する凡例

- 滞防底部
- 護岸直下
- シルト域

※ ハビタットシルト域は、塩浜1丁目側では、砂分や細礫分が多く、塩浜3丁目側に向かうにつれ、シルト・粘土分の割合が増加する。

【護岸直下】
 浜の上にマガキが多量付着。カキ殻の周縁は巻貝類や甲殻類の棲み場として利用されている。
 ・水深：干出～約50cm程度
 ・主な動物：マガキ、タマキビガイ、イボニシ、ケラサイリガ、インゲン等



【シルト域】
 底はシルトからなり、サルボウガイ、アカガイ、アサリにより代わられるエリア。塩浜1丁目側は砂・礫の割合が高く、塩浜3丁目側に向かうにつれ、シルト粘土の割合が高くなる。
 ・水深：干出～150cm
 ・主な海草類：アサリ(所により)、マサキ、アサリ、アサリ、マンナンタンポコ、ヒメハゼ、マハゼ等



【滞防底部】
 水深が深く、流速が速い。水中植物が少なく、以外で藻類が強い。他のハビタットと比較して生物は少ない。
 ・水深：約1.5～2.6m
 ・主な動物類：ハナモ、オゴノリ、マナボコ、マナボコ、ミノムシ等

流況の概況 (9月)
 北東～東北東方向が卓越する。3月もほぼ同じ流況が卓越。流速については、8～9cm程度

流況の概況 (9月海面上0.5m)
 東北東と西西南西方向の往還流が卓越。平均流速は1.6～4.6m/3月の流況もほぼ同じ流況が卓越

さらし砂実験場 (一時使用)

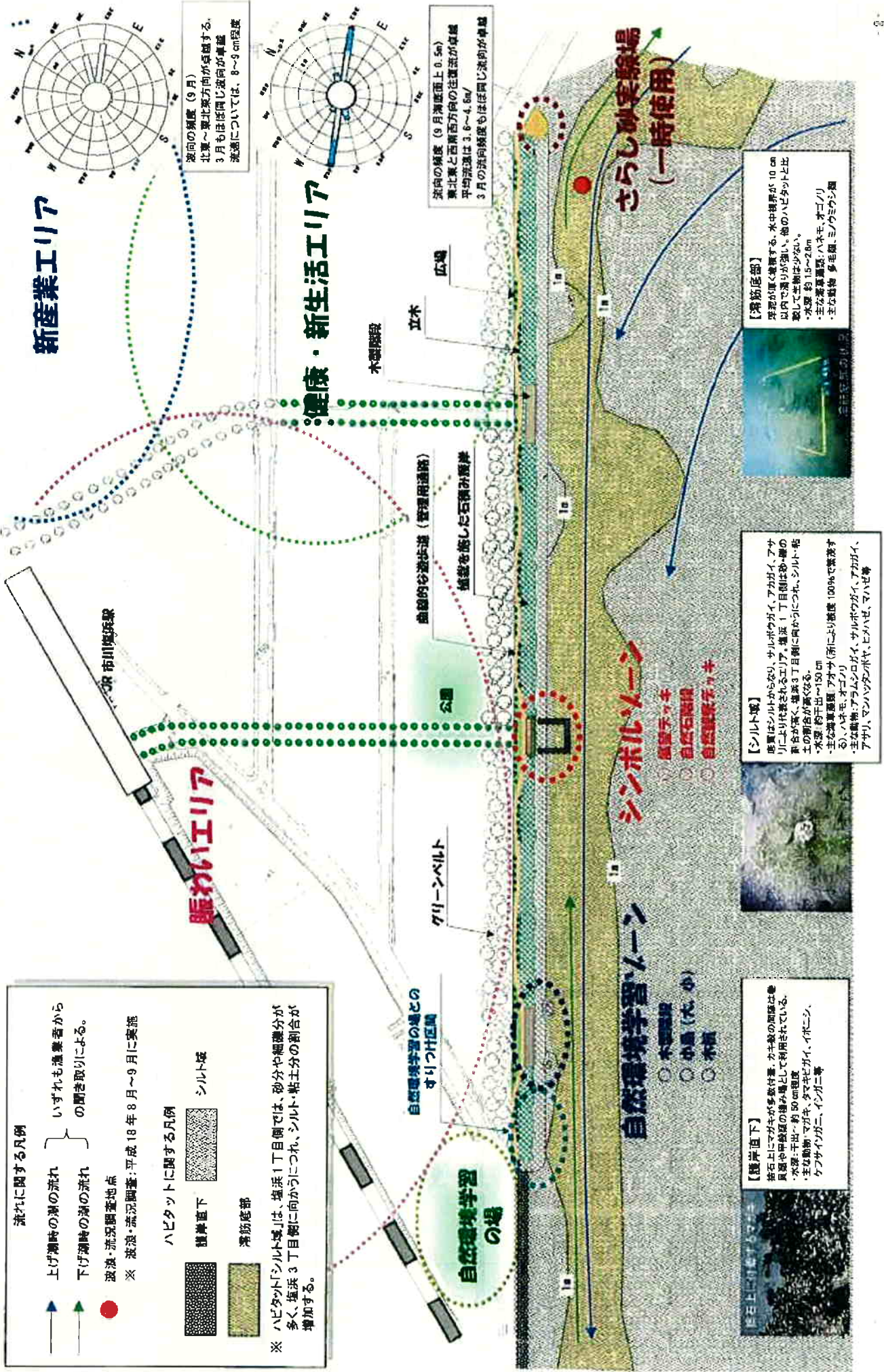
シンボルゾーン

- 遊歩デッキ
- 自然石遊歩
- 小島(大、中)
- 木橋

自然観察ゾーン

- 木製遊歩
- 自然観察デッキ

事務局が考える塩浜2丁目の護岸配置示デザインイメージ (2)



流れに関する凡例

↑ 上げ潮時の潮の流れ
↓ 下げ潮時の潮の流れ

● 波浪・潮流調査地点

※ 波浪・潮流調査：平成18年8月～9月に実施

ハバタットに関する凡例

■ 護岸直下
■ シルト域
■ 滞防底部

※ ハバタット「シルト域」は、塩浜1丁目側では、砂分や細礫分が多く、塩浜3丁目側に向かうにつれ、シルト・粘土分の割合が増加する。

新産業エリア

潮流の頻度 (9月)
北東～東北東方向が卓越する。
3月もほぼ同じ流向が卓越
流速については、8～9 cm程度

健康・新生活エリア

潮流の頻度 (9月海面以上 0.5m)
東北東と西南西方向の往復流が卓越
平均流速は 3.8～4.8 cm
3月の流向頻度もほぼ同じ流向が卓越

さらし砂浜験場 (一時使用)

【滞防底部】
浮泥が堆積・沈着する。水中境界が10 cm以内で濁りが強い。他のハバタットと比較して生物は少ない。
・水深 約 1.5～2.0m
・主な動物 多毛類、ハネモ、オゴノリ



【シルト域】
底質はシルトからなり、サルボウガイ、アカガイ、アサリにより代表されるエリア。塩浜1丁目側は砂・礫の割合が高く、塩浜3丁目側に向かうにつれ、シルト・粘土の割合が増える。
・水深 約 干出～1.50 cm
・主な海草類 アサチ (新により頻度100%で発生する)、ハネモ、オゴノリ
・主な動物 アラムシロガイ、サルボウガイ、アカガイ、アサリ、マンハントボヤ、ヒナヒ、マハゼ等



【護岸直下】
枯石上にアサチが多数付着。カササギの餌場は鳥類や甲殻類の棲み場として利用されている。
・水深 干出～約 50 cm程度
・主な動物 マダキ、タマキビガイ、イボニシ、ケサソリガニ、インガニ等

